

国内連帯を活用したセーブ・アンド・グロウ農業モデル推進事業 (継続)

【21(23)百万円】

対策のポイント

我が国及びアフリカ諸国の国内連帯を活用し、セーブ・アンド・グロウ（節約して栽培する）の知見や技術を共有し、アフリカ諸国の持続可能な農業生産の強化を推進します。

<背景/課題>

- ・FAOは、農業における新しいパラダイムとして「セーブ・アンド・グロウ」を提唱しており、自然資本と生態系便益を高めつつ環境への負荷を減らす持続可能な農業生産の強化が必要とされています。
- ・世界的な食料問題を解決するには、各国政府、国際機関、NGO及び民間団体等全ての関係者の連携を強化し、そのネットワークを活用した協調的取組が重要です。
- ・FAOでは、飢餓・栄養不良撲滅のための世界的連携（AAHM）や各国の飢餓・栄養不良撲滅のための国内連帯（NAAHM）の活動を推進しています。
- ・このため、食料不安の状況が長引く国が多く存在するアフリカ地域に対して、我が国のNAAHMであるゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン（ZHNJ）を活用し国内民間セクター等の参加を促進するとともに、アフリカ途上国のNAAHMと連携し、セーブ・アンド・グロウに関する協調的支援を実施してまいります。

政策目標

- セーブ・アンド・グロウ関連支援を、ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン（ZHNJ）参加団体で10件以上実施。

<主な内容>

1. 国内連帯の活用

セーブ・アンド・グロウの推進に関して人材交流及び意見交換等を行うため、NAAHMが存在するアフリカ途上国のNAAHM参加者を我が国へ招聘し、我が国の研究機関、援助機関、NGO及び民間セクターとのネットワークを構築し、今後のアフリカにおける実践的プロジェクト等へつなげます。

2. 民間セクター等に対する国内啓発活動の促進

- (1) セーブ・アンド・グロウ関連情報を中心に、情報発信及び国内ネットワーク構築を目的としたワークショップ・セミナー等を開催します。
- (2) FAO本部（ローマ）で開催される世界食料安全保障委員会への参加及び帰国後に報告会等を行います。

3. セーブ・アンド・グロウ等に関する情報整備

国内における基礎的情報整備を図るとともに、セーブ・アンド・グロウ等に関する情報をFAO日本事務所の公式ウェブサイトに掲載及び発行します。

（ 拠出先：国際連合食糧農業機関（FAO）
事業実施期間：平成25年度～平成29年度 ）

（お問い合わせ先：大臣官房国際部国際協力課（03-3502-5914（直））

